

大会名 Competition	第32回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-108	Year Month Day Time 2019 年 5 月 4 日 14 : 15
場 所 Place	能代市総合体育館

発行：能代市バスケットボール協会
http://ncup.snowland.net



チームA		チームB										
能代工業	<table border="1"> <tr><td>19 1st</td><td>26</td></tr> <tr><td>19 2nd</td><td>22</td></tr> <tr><td>16 3rd</td><td>26</td></tr> <tr><td>27 4th</td><td>13</td></tr> <tr><td>0 T</td><td></td></tr> </table>	19 1st	26	19 2nd	22	16 3rd	26	27 4th	13	0 T		開志国際
19 1st	26											
19 2nd	22											
16 3rd	26											
27 4th	13											
0 T												
81 ●		87 ○										

主審:Crew chief
高城 邦弘 宮城
副審:Umpire
武田 亜沙美 山形
澤野 卓朗 青森
テーブルオフィシャル:Table officials
大館鳳鳴

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	×	須藤 陸	CAP	3	1	0	0	3	4	×	高木 拓海	CAP	19	2	4	5	2
5	／	栗屋 颯太		2	0	1	0	4	5	／	板澤 明日起		8	0	4	0	3
6	×	森山 陽向		0	0	0	0	3	6	×	永原 陸		4	0	2	0	0
7	×	秋元 淳之介		16	1	6	1	2	7		吉川 瑠		-	-	-	-	0
8	×	伊東 翼		20	3	3	5	3	8	／	渡邊 渉太		0	0	0	0	0
9	／	上村 悠真		14	4	1	0	1	9		西村 洸星		-	-	-	-	0
10	／	上村 大佐		2	0	1	0	0	10		星 一輝		-	-	-	-	0
11	×	佐々木 駿汰		12	1	4	1	2	11	／	小島 一真		0	0	0	0	1
12		中山 玄己		-	-	-	-	0	12	×	小野 功稀		7	1	1	2	0
13	／	高橋 裕心		12	4	0	0	1	13	×	ジョーンズ 大翔		17	2	5	1	2
14		田中 伶治		-	-	-	-	0	14	×	JOOF YUSUF		24	1	9	3	1
15		成澤 頼		-	-	-	-	0	15	／	OKOYE PETER JUNIOR		6	0	3	0	2
16		大石 隼		-	-	-	-	0	16	／	石原 史隆		2	0	1	0	1
17		小形 佳史		-	-	-	-	0	17		田村 歩夢		-	-	-	-	0
18	／	藤原 健太郎		0	0	0	0	0	18	／	白澤 朗		0	0	0	0	0
コーチ		小野 秀二						0	コーチ		富樫 英樹						0
アコチ		島内 聡太						0	アコチ		津野 祐樹						0
合 計				81	14	16	7	19	合 計				87	6	29	11	12

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P率 インシュート 2P:2P率 インシュート FT:フリースロー F:ファウル

Score ranking [Team]

1	20	24.69%	伊東 翼	1	24	27.59%	JOOF YUSUF
2	16	19.75%	秋元 淳之介	2	19	21.84%	高木 拓海
3	14	17.28%	上村 悠真	3	17	19.54%	ジョーンズ 大翔

Score ranking [Game]

1	24	JOOF YUSUF	開志国際	2	20	伊東 翼	能代工業	3	19	高木 拓海	開志国際
---	----	------------	------	---	----	------	------	---	----	-------	------

初日に2敗を喫した能代工がここまで無傷の3連勝の開志国際に挑んだ一戦。試合は#14ジョフがティップオフに勝ち開志国際への攻撃が始まった。やや固さがめだつ序盤、能代工のショットが思うように決まらない一方で、開志国際は#14ジョフの豪快なリバウンドやゴール下の奮闘、#13ジョーンズの切れ味鋭いドライブからのプルアップジャンパーなどでリズムをつかみ、中盤には開志国際が6-14とリード。しかし能代工は慌てず、オフェンスではうまく時間を使いながら、#11佐々木、#7秋元、#8伊東、#9上村(悠)らが3Pやドライブ、ポストプレイで加点して追いつく。1Qは19-26の開志国際7点リードで終えた。

ショット精度が上がらなかった能代工だが、2Q半ばに#13高橋、#4須藤、#9上村(悠)が立て続けに3Pを沈め、さらには#10上村(大)の速攻からのレイアップなどで追い上げる。開志国際は#13ジョーンズと#14ジョフの息のあったピックプレイなどで応戦するが、能代工はディフェンスでもジョフのゴール下を阻止する執拗さをみせ、残り3分を切って38-41の3点差にまで迫った。しかしここから開志国際は7点を連取。前半終了時点では、38-48と開志国際が2桁の点差となった。

3Q開始早々#4高木の3Pで勢いづいた開志国際は、#13ジョーンズ、#14ジョフ、#5板澤が速攻から次々と得点を重ね、攻勢を強めた。残り4:16に#4高木がFTを決めた時点で、スコアボードは47-70。能代工にとっては、相手に走らせてしまったこの時間帯は痛かった。

54-74と開志国際20点リードで始まった4Q、能代工は辛抱強く食らいつづが、中盤まで点差はなかなか縮まらず、残り5分を切って#15オコエがダンクを決めた時点で62-82と20点差は動かない。勝負ありか…との雰囲気も感じられたが、ここからの時間帯は“能工タイム”。フルコートプレスが牙を剥き、開志国際はターンオーバーを連発。能代工は#8伊東のFTや3Pなど19-5のランで追いつけたが、最終スコアは87-81の開志国際。好試合に会場は大いに沸いていた。